

# 先人たちの声

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

社会福祉法人 北九州市戸畑民生事業協会 特別養護老人ホーム

## 戸畑大谷園

入所70名/短期入所5名  
北九州市戸畑区西大谷1-6-22

平成4年4月に開設し、多様な福祉サービスを展開。地域に暮らす人々との交流などを幅広く行い、地域福祉の推進に努めている。



介護主任  
津江さん

介護係長  
田中さん

主任生活相談員  
中野さん

### 北九州モデル導入の主な取組内容

- **入浴**  
【取組】 入浴日や職員配置の見直し等  
【効果】 入浴介助の所要時間 ▲45分/日、入浴担当職員数 ▲2名
- **記録（アセスメント表作成）**  
【取組】 記録システムを活用した直接入力、都度データ更新  
【効果】 アセスメント表作成時間一職員あたり平均 ▲28分/回
- **周辺業務（病院受診時の送迎）**  
【取組】 受診時間の変更（病院の協力）、タスクシェアの実施  
【効果】 生活相談員による送迎回数▲4～5回/月 など



北九州モデル導入の流れ  
(センターによる伴走支援)

	R5 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6 1月	2月	3月
<b>準備</b> キックオフミーティングと今後の流れの共有	■										
<b>調査</b> センターによる業務量調査と結果報告会	■	■									
<b>検討</b> 課題抽出と解決策立案に向けた意見交換		■	■	■							
<b>実践</b> 取組の実施/センターとの意見交換/振り返り				■	■	■	■	■	■	■	■

#### 1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

人手不足に加え、職員の平均年齢も上がってきており、現場の負担や疲労が増えていってました。そこで、**この状況から抜け出すべく**、業務の切り分けや整理をし、**業務負担の軽減を図ろう**としていましたが、なかなか自分たちだけでは思うように実行に移すことができませんでした。そんな折、北九州モデルの話があり、取組に参加することにしました。

#### 4 今回の取組で役に立ったことは？

これまで「この業務が大変」と漠然に捉えていましたが、業務量調査を行ったことで、**業務を客観的に見直し、振り返ることができました**。その結果、業務負担が軽減し、効果を体感したことで**新しいことへ取り組む際の不平や不満もなくなって**いきました。また、データを用いる視点が増えたことで、**根拠のあるケアの展開**へとすすめるきっかけになりました。

#### 2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

係長や主任、リーダーたちが集まる会議で「**北九州モデルとは何か**」「**今後施設として何をを目指すのか**」を明示、共有しました。そして、リーダーたちを中心に**現場の意向を確認**しつつ、各職員へと繰り返し説明をし、「**すぐには結果が出ないかもしれないが共に頑張ろう**」という想いも伝えていったことで、合意形成を図ることができました。

#### 5 新たな取組など、今後の方針は？

引き続き業務改善や**新たなテクノロジー（見守りや排泄支援機器）の導入**を進めていき、更なるゆとりを生み出し、利用者と過ごす時間と内容を拡充させ、より**利用者にやさしい個別性の高い支援や活動へと発展**させていく予定です。また、介護テクノロジーを活用し、データをもとにした根拠のある**科学的介護の実現**もすすめていく方針です。

#### 3 取組にあたり壁になったことは？

これまでの業務の流れを変える、新しいことを始めること自体が大きな壁でした。なぜならば、変化していく過程において、一時的な負担は必ず増えるからです。そこで、「今は通過点。苦しい時期ではあるが、必ず結果が待っている。一緒に頑張ろう」と伝え続け、**先の見えない不安を払拭**しつつ、**変わることへの耐性を高める**ことで、乗り越えていきました。

#### 6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

変化していく上では、多くの壁やさまざまな衝突もあるかと思いますが、しかし、社会情勢や働き方など多くのことが変わっている現代だからこそ、**持続可能な介護の実現に向けて、これまでの介護のやり方、そしてあり方自体を変える必要がある**のではないかと思います。**変化を恐れずに、現場の意見を丁寧に吸い上げ**つつ、利用者や職員の未来のために、まずはトライしていただければと思います。